

ネパールの風

98ネパール日記

ヤラ・ピーク登頂記

その・9

後藤 隆徳

10時過ぎ今泉も無事B・Cに到着した。天気はすっかり回復し、いつもの気持ちよい青空が広がっていた。風香り暖かく、感覚的には5月の穂高あたりを登ってきたようだ。B・Cには登頂が成功に終わった華やかさが溢れていた。

テントに入り登頂祝いをワインで乾杯した。だが、加藤はいま一つ元気がない。食欲がなく、嘔吐もしたようだ。軽い風邪をひいたかもしれない。いつも元気な人が調子悪いと回りは火が消えたようで急に寂しくなる。高岡も疲れたのか横になってしまった。

結局、今回はその後高岡、今泉共体調を崩し、全員一度は不調に陥る結果となった。高岡はカトマンドゥで招待されたラジェンドラさんの料理が余りの不衛生で、すっかり気分が悪くなり体調もおかしくなった。また、最後まで絶対大丈夫と思われた、絶好調人・今泉は、帰国前夜カトマンドゥで雨に打たれ風邪をひき、発熱し飛行機でグッタリ。結局、香港でおいしい「本場・香港料理」を全く口に出来なかった。

私だけ「名誉」な記録を残さず「安心」したが、旅の後半にいろいろ出たのはやはり、疲れが溜まってきたのだろうか。

テントでのんびりしていると下から中高年のグループが7~8人登ってきた。私が熱を出した時ヘリコプターでやってきたアルパイン・ツアーのウエガキ達だった。遅かったのはヘリで入山したことによる高度順応化のため、キャンジュン・ゴンバに少し滞在していたためだ。

ウエガキは私に会うと、私が高熱を出したのにも関わらず、無事登頂を果たしたことを自分のことのように喜んでくれた。ツアー担当者として正直な気持ちだろう。

ただ、私はヘリで入山する方法があることを知らなかった。ウエガキ等は旅行会社のツアーでなくプライベートの山行とのことだが、ヘリを利用すれば休暇は3日短くて済む。休暇取得の厳しさを考えれば、一言あってもしかりと思った。

ウエガキ隊にも何人か素人っぽい人がいて青い顔ですでにバテバテの人がいた。ここでこんなでは、とても登頂はおぼつかないだろう。

後藤、今泉は意気軒昂。登頂が満足いく形で終えた達成感で口は軽く、心も充実感で満ちていた。本来ならここはガツンと大いにやりたいところだったが、しかし油断は禁物。



(上) 登頂後
 B・Cとハコ
 中央後ろガ
 ヤラ・ピク
 (中) ホーターの
 オバさん
 (下) A隊リータ
 ゴウマ
 さん



酒は控え早めに就寝した。

第10日目 5月2日(晴) 起床6:30～出発7:50ーキャンジュン・ゴンバ
10:30～散歩～お別れパーティ19:00～就寝
21:00

下山はルンルン、素晴らしいヒマラヤ

朝目覚めると回りは新雪がうっすらと積もっていた。昨夜降ったらしい。こんな事を繰り返して春は近づいて来る。

テントには陽光が溢れていた。今朝の目覚めは何て気分の良いことか。登頂が終えた一種独特の解放感があった。B・Cには明るい笑い声が響く。

まだ、朝食前だがすでにポーター達は荷物を整え出発する者もいる。中には前述した母親と娘もいた。昨夜はカルカの岩小舎に泊まった。例によって大きな荷物にも背負い、新雪の上をビーチ草履でペタペタと下ってゆく。何て遅いことか。

朝食を済ませ出発準備を整えA隊のリーダー・ゴトウマリと記念撮影。彼女の話では昨日A隊では1名登頂出来なかったとのこと。原因は靴にアイゼンが合わなかったという。初心者にありがちなことだが、昨年11月の八ヶ岳で近藤も危うく同じ状況になった。その時は急遽山本正のアイゼンを借用して事なきを得たが、要は事前に点検すればそれ程問題は無い。本人と回りの意識が足りなかった。

全員で記念撮影し下山開始。下山は高山病の心配がないので安心だった。空荷でカメラを下げ、今回の登山を反芻(はんすう)しながら、時にはニヤニヤし、ブラリブラリと「流して」行く。なんという至福の時か。

下山は登山時の印象とまたひと味違った。日差しは益々強まりサクラソウ、アヤメなどの花が随分増えた。そして昨夜の降雪のため山々は一段と光り輝いていた。サクラソウが咲き乱れる草原で休憩すれば「やっぱりヒマラヤは素晴らしい」と思わずにいられなかった。キャンジュン・ゴンバに到着。時間があるので対岸のランタン・コーラ河岸にある一種の「氷河湖」(いろいろの種類があるが、一般的には、氷河に關係して形成された湖の総称)に遊びに行く。

物凄い流れのランタン・コーラの弱点を我々3人は簡単に探して飛び渡った。少し遅れてきた今泉は苦勞した。湖にはオタマジャクシがいたり、こぶりのシャクナゲが咲き、特に日本にない大柄のサクラソウが素晴らしい。

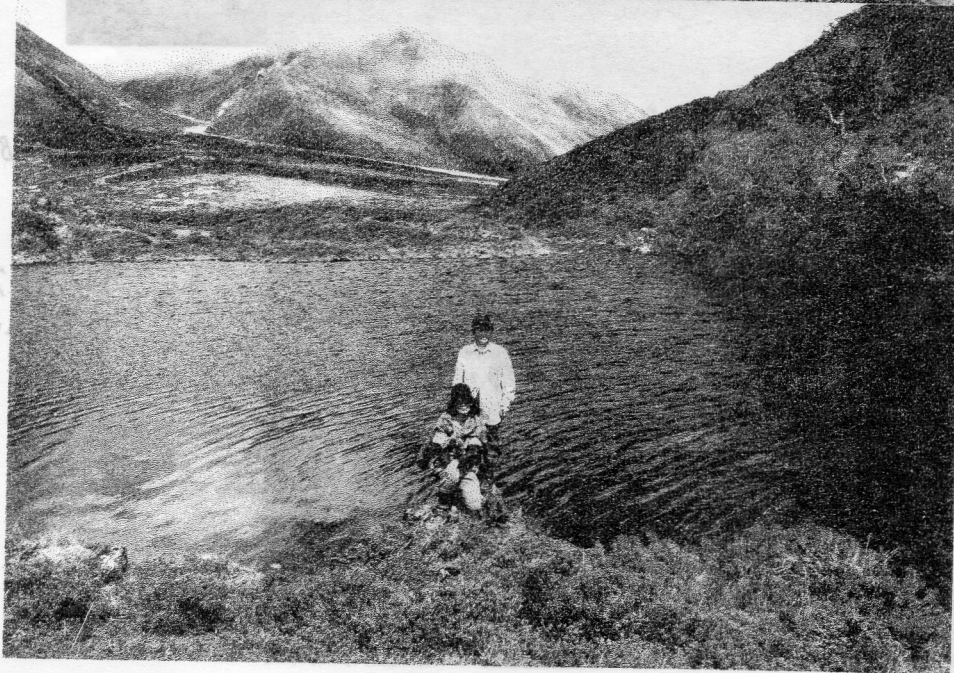
夕食時、明日カトマンドゥに帰るへりの順番を元気者の加藤がA隊代表とジャンケンで我々に決めた。たかが先行、後行だけだったが、実はこのことに大変な結果が待っていることを、その時誰も知らなかった。

(以下次号・ナマステ、ナマステ)



(上) 下山時B.C
にて

(中)
(下) トレッキング
は楽しい



(上) すばらしい
ヒマラヤ!
バックはラタン
リルン
(中) 大柄なサクラ
ソウ
(下) 一種の氷河
湖にて